



NO. 390

2025. 12. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会

大阪市天王寺区東高津町12-10

大阪市立社会福祉センターB1F

発行責任者 長谷川 美智代

TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623

<https://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

定価 10円

大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

創立70周年記念 第10回 全国手をつなぐ

育成会連合会 全国大会が開催されました

法人事務局長 飯塚 聡



11月8日・9日と東京都(大田区蒲田)で、創立70周年記念第10回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 東京大会/本人大会が開催されました。

今大会は第10回大会ということもあり、全体会の記念式典に皇室から佳子内親王にご臨席を賜りました。佳子内親王からのおことばでは、「知的障がいに対する理解がさらに広がり、一人ひとりが大切にされ、すべての人が安心して暮らすことができる社会になること」や『手をつなぐ』に掲載されている「ニュースのじかん」のコーナーに関して「わかりやすい情報提供については必要なこと」とありました。

その後の記念講演では、映画監督の和島幸太郎氏と(一社)スローコミュニケーション代表の野澤和弘氏による対談「ともに生きる社会をじんわりと語り合う」が行われました。

映画監督である和島氏は、4年前に公開された映画「梅切らぬバカ」の監督です。映画では50代の自閉症男性と母親との関係について、日常を描きながら住まいの問題を提起しています。

対談は「タイトルに込めた想いについて」から始まり、和島監督がこの映画に取り掛かる前、ドキュメンタリー映画「だってしょうがないじゃない」の編集に携わったことがありました。その映画のテーマが親なき後問題でした。その男性は今でもご実家に住んでおり、庭に桜の木があることから、秋冬になると枯れ葉が隣接家屋に落ちて苦情を受けていました。最終的に桜の木が伐採されるのを見ていた男性の様子が痛々しかったことが印象に残ったそうです。そのような時に劇映画を作成するタイミングがあり、庭の梅の木を通じて近隣とのつながりを構築していく映画にしていったということでした。その時に「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」ということわざがあることを知ったということです。ことわざの本来の意味は、樹木を剪定する際、それぞれの木の特性に従って対処する必要がありますが、人との関わりでも、相手の性格や特徴を理解しようと向き合うことが大事であるということを伝えたかったとありました。

次に母親役を演じた加賀まりこさんのエピソードに話題は移りました。主人公である母親の珠子さんの設定を決める際、障がいのある家族がいる母親取材し、その母親たちから受けた印象が加賀まりこさんに合致したそうです。低予算の映画ではありましたが、加賀さんにシナリオを送ってみたところ、シナリオの内容に共鳴をしてくれたようです。打ち合わせの際にも送付したシナリオに多くの付箋を貼って頂いており、その付箋の箇所について意見交換をしてシナリオを修正し、加賀さんと一緒にシナリオを作り上げた映画だと話されていました。加賀さんのパートナーのお子さんが自閉症の息子さんだったことが撮影時に分かり、その息子さんも50代ということで、演技というより自然な接し方の印象を持ったとありました。映画の中で、加賀さんから息子に対して「ありがとう」というセリフを入れたいという希望があり、その部